

中川根ふる里通信

= 第89号 =

中川根ふる里通信
 昭和61年4月20日創刊
 編集・発行・連絡先
 静岡県榛原郡川根本町
 TEL 0547 上長尾547-6
 56-0045 FAX 56-0020

<http://furusatotsushin.yamanoha.com/>

大井川支流 思い出のアルバムより —長尾川—



長尾川の川狩り風景 昭和20年代

三星山^{みつほしやま}や大札山^{おおいしやま}に源を発する長尾川は、上長尾・高郷間にて、大井川に注がれる水量豊かな川で、長野^{まほろ}・松尾^{まつお}・尾呂久保と人里もあり、木材業もさかんで、昭和20年代まで鉄砲流しの川狩りが行われておりました。写真は、現在第1堰堤付近から、一番出し^{いちばんだし}(現、川根本町役場)を遠望しています。

“大変!! 新茶が遅れています!!”

—桜ん早いと、荒手のお茶摘みさんがやって来て、ひと晩で摘んじやうで、おっかないぞ—の誘は、当ってしまい、ました。荒手のお茶摘みさんとは寒さ(凍・霜)の事は、ご存知と思いますが、大変な事になってしまいました。

二月はとても温かく、春近しと感じ、すこしやすしい冬だと喜んでいました。何やら気象の異変の前ぶれか、嵐の様は雨が降り、三月に入ると、梅雨時のごとき雨続きとなり、季節は半月ほど早くめぐっている様に、樹木は春を詠みとつたりか、芽



50年位前の茶摘み風景。茶原は丸柱が主流、樹種も以前からの「いらい」で、やぶきた種はほとんどなし。茶時が5月10日頃とおそく手摘み、小・中学校は、約1週間の茶休みとなり、お茶の手伝をした。

吹き、花咲きが極端に早く、山桜は十日頃より卒業式には、校庭の桜が五分咲きと、珍しい事になりすした。桜は咲きすした。が、彼岸を過ぎて、猛烈な寒さがやって来すした。桜花は満開とならず、足ぶみ状態、長いく花見の年となりすした。そして、三月三十日、寒暖計は氷点下をさし、真冬の寒さがやって

来すした。静岡県の最大茶処、牧之原など、早摘みの茶産地や早生茶園は、防霜ファンやスプリンクラーの甲斐なく、かなり伸びたお茶の新芽が凍ってしまい、萌木色に色づいた美しい茶畑は、一夜にして茶色に変わり、やがて冬の茶畑の風景となってしまいました。今迄に、南部(東海道)地域で、この様な茶畑の姿を見たことがありません。本当に驚いてしまいました。

ふる里、川根茶産地は、三月三十日の寒さには、早生種や、特別生長のよい茶園は別として、新芽が小さい事が幸いして、南部ほどの被害にはならなかったのですが、茶園全体の新芽の凍によるダメージは受けました。(霜柱、トウダミの新芽など、地表の植物は枯れたほどの寒さでした。)

四月に入っても、あまり温かにならず、「寒いねー」があいさつとなりすした。が、それでも草木の新芽は伸び、茶園も少しづつ、生長して行きすした。が、依然として、天候は不安定で、中には寒さが来て、高い山には雪、平地はみぞれとなり、二十日は、バカ陽気、三五度と起す暑さ、その後、冷たい雨や、雷ヒョーが降る荒天となりすした。が、こちらは防霜ファンが新芽を守ってくれたと、茶農家の方は、ほそつと、話してくれました。——今から三十年ほど前の昭和五四年四月二十三日前後、ふる里は、凍霜害にあり、ほとんどの茶園の一番茶は、全滅した苦い経験があります。その後、防霜ファン設置など、寒さ対策を設し、何回かの寒害から茶の芽を守って来たふる里の茶業、あの時の教訓は生かされています。——と、思っています。

例年、ゴールデンウィークは、お茶摘み、お茶刈りの真最中、行県客をしりめに、家族力を合わせて、茶の収穫に、全力を注ぐ、ふる里ですが、茶時は、大幅におくれています。

しかも例年になく新芽は不揃いで、枝摘みが出来にくく、手摘みをよぎなくされます。お茶摘みさんは大丈夫でしようか？ 前ページの写真の風景は、山里に多くの人が住らし、農林業が職業として通用した時代でした。

近年、若い親達が、茶園作業がままならず、子供が休日を利用して、サーフと機械で刈取って、大型製茶工場へ運ぶか、生葉で茶農家の協同製茶工場で買い取ってもらう方法が唯一、高齢社会の茶産地の生きのびる方法でありました。前記の様に子供が手伝ってくれる家族も無い家では、頑張るだけ頑張って、あとは野となれ、山となれ——の誘通りに泣く泣く放置茶園と、なるのです。

あてにしていた、ゴールデンウィークの茶摘み作業は、一部の地区をのぞいて、あてが外れてしまい、なお、苦勞の種はふえてしまいましたが、新茶の芽は、このところ、力強く、確実に伸びています。もうすぐ、ふる里も、あちらこちら、茶原(茶畑)で、動力茶刈機のブーンとした音がひびき、製茶工場からは、香わしい茶柔みの香りが、春風にのって漂ってまいることでしょう。近年、早どり茶が流行して、今一つ味が薄いと、川根茶の本茶の味がそそなわれる状況が続きます。まして、今年こそは、日射しを一杯受けた、おいしいお茶の時期はおくれても、期待したいと思えます。お茶の全体の収穫量は多分下がっているでしょうから、

川根本町の茶農家勇士による、全国茶品評会に、今年も出品致します。一昨年は、日本一茶園産地賞と栄誉に輝きました。一昨年は、入賞者も少なく、残念な結果となりました。今年はどうでしょう。か、天候に左右され、厳しい条件のお茶ですから、茶農家を元氣付ける大賞がとれれば、いいな——と期待しております。



四月二十五日(日)大...山登山、南尾根へ山頂を望む



大札山より、北部、南アルプスと前衛の山々を望む。馬酔木とアカヤシオ、白い面はなごり雪。

この季節、心をときめかせて、逢いに行くのが、大札山のアカヤシオ。25日、山の仲間と、樫木平から登りました。昨日の雨は山では雪になって、樹々からほのかに落ち、めずらしい雪景色となり。かわいそうに、アカヤシオの花の大半が凍って、褐色になり、落下してしまいました。

温故知新

白寿中野幸逸

白寿なる祝の酒に

振り返る

我が越し方の

回り灯笼

中野幸逸



中野幸逸さん逝く

早くも春の花が咲き初めた三月十一日夜、中野さんは静かに来世へ旅立たれまされた。もうすぐ百歳を迎えられると言ったのに、白寿のまま現世とお別れになりました。また一つ、ふる里の宝物が消えました。残念な事ではありますが、中野さんの残して下さった足跡は、これから各方面にて、お手本になり、人々の心に生き続けていく事でしょう。

まずは川根茶産地の振興につくされた事、茶業の師として先頭に立ち導いてくれました。お茶の始めから終りまで、全て知りつくした方と言っても言いすぎではありません。そのほか、町の要職にも何度となく就かれ、教育界以外の教育長職も、当時はめずらしい事で、新しい発想の元、民意も加えられた教育行政が推められました。

そして、高齢期をむかえられたここ二十余年、人もうらやむ知性と、健康管理、家族と生活を一つにして、各方面にて活躍され、このうう人が生涯現役と感嘆させられたものでした。

さて、ふる里通信の事ですが、創刊の頃より、中野さんは、おつきあっていたとき、お茶のこと、経済のこと、歴史他様々の事を寄せて下さいました。同級生の原田耕作さんがお亡くなりになった後、長い手紙をいただき、原田さんの「ふるさと夜話」に続ける様に、中野さんの貴重な体験記録をふる里通信に載せていくことになりました。特に第二次世界大戦中の満州移民に付きま

ては、中野さんの観点から伺ったこととお頼いすると、「拓墾」に載っているから」と多くを語りたくない模様でした。

その後、埼玉県荒川村(現秩父市)の皆さんと中国へ参参に行った記事と、黒江若何近の写真を届けて下さるあたりから、少しずつ中野さんの体験された事を綴った、厚い手紙が届くようになりました。中野さん連開拓団員の男性は、

平成二十二年二月吉日

中野幸逸

小沢節子様

立春は過ぎ去り、雪も去りぬ新緑が健勝が、健斗中と存じます。

中川根ふるさと通信には専ら、素晴らしい採りよみと下まり、個人的通信まで誌上で踊らせよう、誠には有難く存じます。

おは、私は若い時から、仕事にも精一杯の努力を重ね、冬も暑くも、日ノ間、戦には三回砲弾の下をくぐり、愛慕を失う、シベリヤより、軍事生活、思いは生き、長らへ、白鳥と、有り難く存じます。今後は白鳥の記念として、小石をお贈りします。おの、受納下さい。よろしく、お願い申す。今後は、よろしく。

2月中旬、中野さんよりプレゼントが届きました。桐の箱に入った新茶の芽ぶき色(浅黄色)の上品な風呂敷でした。そして封筒が添えられ「故知新」「白鳥なる祝の酒に振り返る、我が越し方の回り灯籠」と上記の手紙が入っており、墨香漂う書は、お別れの便りとなりました。まれにみる、追って天寿を全うした、中野さんの最後の筆をお届け致します。

現地心召により、兵隊さんになったのです。開拓団(周家川根)には、女性、子供、老人が死なれ、生活していたのです。中野さんは、ハイラル(ソ連国境)付近に配属となり、あの八月九日、ソ連参戦、満州は戦場と化し、十五日の終戦後もハイラル方面は戦いが続けられ、二十九日、やっと戦争が終ったという、誠に衝撃的な事実を知る事になりました。そして、武装解除、日本兵は各所に集められ、日本へ帰るのではなく、捕虜となりシベリヤに送られて、強制労働、極寒の地の冬、食料もとほしく、多くの兵隊さん達はシベリヤの土となったと、身の毛もよだつ体験を克明に記して下さいます。それにして、何と記憶力の良い方でしょう。中野さんが書いて下さらなければ、私達は永久にシベリヤや抑留の真実を知ることが出来ませんでした。いくら戦争後の事とは言え、シベリヤへ行って行かれた日本兵は、戦場ではなくて、抑留地で、二人に一人は死亡するという、考えられない真実に直面していったのです。中野さん、書いて下さって本当にありがとうございます。お礼申し上げます。

この頃の中野さんは、友人に手紙を書く事や習字を書いて下さる。この頃には、課としておられましたが、二月初旬肺炎をおこし、島田の病院に入院され、三月初め治り、退院されました。その時、車の前に乗り、大井川や山々、地域など、車窓の景色をしっかりとめられ、家にもどったそうです。

しかし、身体の衰弱は日々大きくなり、十日を待たず旅立って行かれました。娘のますさんが「父は一度も下の世話をさせずに終りました。ただ、逝く日の日中、お前には世話になったな。ありがとうよ」とお礼を言ったそうです。私は(ますさん)五十余年前に若くして亡くなった母より「父さんの事はよろしくたのみます。このころ、いかに、話したと、いかに、笑いました。」

夕食を少し食べて、あつあつおの、いと思つた時が最後でした。

高木 壬太郎の一生が川崎 司先生の研究

調査によって立派な本になり、今年二月十五日、第一刷が発刊されました。おめでとうございませう。三、四十年かけて、高木 壬太郎を再生して下さった川崎先生に心よりお礼申し上げませう。ありがとうございます。とうございませう。

高木 壬太郎は元治元年五月二十日（一八六四・六・二三）上長尾村高郷（現川根本町上長尾字高郷）の高木源左衛門の子として生を受け、長尾学校（現川根本町中央小学校）発、掛川、静岡、東京、世界へと羽ばたいていった。ふる里一の偉人ですが、生家も大正期には転出した為、わすれられてしまった感があります。壬太郎の志は、はじめ政界、転じ教育界、さらに転じ、キリスト教、宗教界に専み、明治・大正時代を代表する日本のキリスト教徒とされた方です。この本は、むずかしい所もありますが、座右の書として、拝見する価値のある本です。

高木 壬太郎

その平凡の生涯をたどって



川崎 司 著

近代文藝社

明治・大正期を〈神〉とともに歩んだ
一基督教徒の清冽な生涯。

高潔な品性家の生き様が深く静かに胸に迫る。

近代文藝社 定価：本体 2,800 円（税別）



静岡

遠陽榛原人／静岡師範塾／小学先生／田舎官吏／運命の関／福音士

東京

東洋英和学校神学部／ビクトリア大学／東洋英和学校神学部教師・築地教会・中央会堂・駒込教会牧師／「護教」主筆／「基督教大辞典」／「護教主任記者」再び／青山学院第四代院長
高木家系譜／略年譜／著作目録／人物資料 —————【目次より】

「ふる里上長尾の神童」高木 壬太郎は、力の限り、大きく羽ばたいて、世界の「ドクター・タカギ」となったが、大志を全うする直前、神に召された。

※日本人で神学博士、第一号を授けた人、キリスト教界、アメリカ、カナダ、ヨーロッパでは、今日でも有名、青山学院を大学へと奔走された人。

東京のかたすみから (五七)

テレビの始めから終わりまで

地デジが始まる

渡邊 實夫

来年七月二十四日、従来のアナログテレビが終わり、地上デジタルテレビになる。放送界はその準備が進み、最終段階に入っている。

私も地デジにスムーズに移れる参考、助けになればと思いい、四年前、ふる里通信第八十号に、「デジタルテレビ」と題して述べた。読み返したが、基本はほとんど言い尽くされていた。

純粹にアナログ育ちの私も、遅ればせながら、「我が家もそろそろ」と思い、金をかけないで、安く、簡単にやろうと近くの大型電気店「コジマ」へ行つて教えを受けた。

結論として、従来のアナログテレビに、地デジを受けるチューナーを付ける簡単な方法にするか、地デジがそのまま受かるデジタルテレビ対応機にするかの二つの方法しか思いついた。

ちなみに、チューナーだけなら一百万円前後、デジタルテレビ対応にするると二十〜三十万円の正札が付いていた。近々、どちらにするか財布と相談して決めなくてはならない。国策とは言え、不況の上に定年後の家庭の経済には打撃となる。

生来シッコイ私としては、その後なんじか、安くなる方法はないかと、最近発行の次の数冊に目を通してみたが他の方法はなかった。

地上デジタル放送のすべて「神島治美著
単国解デジタル放送の技術とサービス」
デジタル放送研究会著
「よく分かる地上デジタル放送」
河村正行著など。

私の勤務したテレビ朝日に訊くと、地デジ放送局に要した設備の出費は、東京キー局で約四百億円。経営が苦しい地方の規模局では、放送持ち株制度が認められて、支援されるという。

テレビ局の私としては、政府の景気づけ方針の、来年七月二十四日に地デジ放送にスムーズに入り、画質・音質がよくなり、データ放送やいろいろな情報が得られ、ピルかけなどによる難視聴も解決して、世界的不況から脱出できれば、と思つている。

これから準備をする方のために、総務省が配付した「地デジ受信ガイド」と、NHK技術研究所が配布した「地上デジタル放送ガイドブック」は次の通りである。

◎ 帰属地デジ受信をせむにガイド (総務省テレビ受信者支援センター) ◎ ようこそデジタルテレビへ (NHK デジタル放送ハンドブック)

◎ NHK 地上デジタル放送ガイドブック ◎ NHK 技研公開

◎ 簡単・ラフラック! 地デジ対策 (イツツコミュニケーションズ) など

◎ 参考までに「数ヶ月前、発行の、たくきよしみつ著、「テレビの言葉はない地デジの正体」は興味ある地デジ批判をのべている。

一億台以上あるとされるアナログテレビが粗大ごみになる。政府総務相有やテレビ局はデジタル放送に全面移行を国民に伝えるために、多大な宣伝費をつぎ込んで

いる。「こんなモッタイナイことは出来ない」と、著者は「地デジテレビは持たない」と結んでいる。

発行所「KKベストセラーズ」

二〇一〇年二月 記

シリーズ 川根の水車探宍九 その一

♪ 緑の森の彼方から 陽気な歌が聞こえます

あれは水車の転る音、耳をすませてお聞きなさい。

コトコトコトコトン・コトコトコトコトン・ファミレドシドレミファ

コトコトコトコトン・コトコトコトコトン・仕事にはげみます。

コトコトコトコトン・コトコトコトコトン、いつの日か、

楽しい春がやってくる。

♪ 雨の降る日も 風の夜も 森の水車は休みなく、

粉ひき白の調子とり、陽気に歌を奏でます。

コトコトコトコトン・コトコトコトコトン、ファミレドシドレミファ

コトコトコトコトン・コトコトコトコトン、仕事にはげみます。

コトコトコトコトン・コトコトコトコトン、いつの日か、

楽しい春がやってくる。

♪ もしもあなたが、なまけたり、遊んでいたくなかった時、

ホンの水車の歌声を、ひとり静にお聞きなさい。

コトコトコトコトン・コトコトコトコトン、ファミレドシドレミファ

コトコトコトコトン・コトコトコトコトン、仕事にはげみます。

コトコトコトコトン・コトコトコトコトン、いつの日か、

楽しい春がやってくる。

この軽やかなメロディーは、昭和十七年のラジオ歌謡で、高峰

秀子さんが歌い、当時重苦しい時代を、明るく、元氣付けたと、

書いています。又、私達の中学時代には、音楽の教課書にのって

いて、コトコトコトコトというピアノの前奏が、とてよく、皆さん

で、元氣に歌ったものでした。ただし、「仕事にはげみます」は、

「仕事にはげみましよう」だった気がします。遠い昔の記憶で

すが、水車は、小川などの水流を活用した、すばらしい動力源でしたが、電氣、ディーゼルなど、強力は動力源が供給される様になつてから、ほとんどその姿は消えてしまひました。

三年ほど前から、白井昭さんより、「水車」の特集を、依頼されておりました。今号より、シリーズで、「水車探宍」を組むたいと思ひます。皆さんも水車の思ひ出せ、エピソードがありましたら、是非ともお寄せ下さい。

川根は水車の郷 白井昭

私は金谷東町に住む八十二歳ですが、永年大井川鉄道でSLの動態保存に当たつてきた関係で、各国の産業考古学の先生と知り合ひになりました。

その過程で、恥をかいたのが、欧州の人たちから、今日日本最古の本物の水車は？（ソバ屋の水車は、ダメ）最大のはどこか？などと聞かれて、きちんとした返事が出来なかつたこととです。欧州では、美しき水車小屋の乙女で分るようによ昔からなじみ深いものでした。

あわてて日本の産業考古学の水車部会に首を出して、お教を乞うことにしました。その結果、大井川が水車の宝庫であり、その割に調査が遅れていることを知りました。

島田は水車の町

大型水車の多かったのが島田で、向谷の水門から水路とめぐらせて、多くの水車による製材所を作り、明治三十年頃には、島田駅北から工場をつないで向谷までの人力軽便鉄道（島田軌道）を開設、これは以後昭和三十年過ぎまで、実に五十余年走り続けました。

製材所は蒸氣、モーターと変わつて、昭和四十年頃まで、



島田市金谷東町の水車

昭和四十年、筆者の白井さんが写しました。

※白井さんは、昭和三十四年、伊勢湾台風の後、状況を十枚以上の写真と撮り、貴重な映像を残して下さっています。

え、島田祭り、島田芸者、関連産業を支えまーした。
北河製粉所(向谷)の社長が上京する時、島田軌道の車両に乗り、
勾配で御者一人で漕ぎ、島田駅に着いたとウです。

金谷の水車は多目的

金谷も水の上に浮いた町だが、平池が少なくて水車の数は島田(数十台)より少なかった。

製材は牛尾などで大型水車を用い、製材は志ラヨなどで高速の流れを使い、最も多かったのが米搗き、製粉などの水車であった。主なものは水利権から果へ届けられ、公共的な精米などは当番制など利用がうまく配分されていた。

電気は高価で不足したので昭和三十年頃まで水車が活躍した。が、四十年頃より電気モーターに変わってしまった。

上の写真は、金谷東町の米搗き水車で、左の水車小屋には五つの石臼が並んでいた。

川根路の水車を調べて下さい

川根は、どこも水車を使い、製材には珍しい木製の螺旋水車が戦後まで使われ、笹間には、電気会社より古い自家発電機があった事を目撃される長老も居られ、地名には、大発電所は別格としても、水車の宝庫です。今も古老に聞く最後であり、何処に水車があった、ことだけでも聞き伝えてください。この水車を語る話では必ず面白い話の話を聞くことができて、これがまた貴重なことが多いのです。

編集室より

次回号より、川根の水車探求をお送り致します。その二として、名地区の水車を予定しております。鶴山のたぬり開田の歴史も同時に紹介致します。

“インターネットは危険がいっぱい”

中道正巳

十年前の二〇〇〇年、国会で森総理大臣が英字「IT（情報技術）」を官僚の書いた原稿だったので英語式に「イッツ」と読み、理解してはいない事を知られてしまった。それでも韓国より低かったインターネット利用率で、ITを国家戦略としたのです。

そして二〇〇二年、住民票ネットワークシステムが成立しました。全国民に十二桁の住民票コード番号が付けられ、当時としては珍しい「Z折り」圧着ハカキで通知が来りました。そのハカキは現在算算に眠った体である。眠っているのは未だ良い。納税者番号に利用する案が二月に浮上った事がある位です。すから忘れ無い事です。

住民票コード番号の類は、ITの世界ではIDコード（アイデンティティ、ドキュメント）と言い、身分を証明する重要な番号です。現在、携帯電話を利用した架空請求が、大きな社会問題になっていますが、IDコードを悪用した詐欺もあります。IDコードは印鑑の実印と同じ性質を持ち、パソコンの場合、インターネット・サービス・プロバイダーとの契約で取得します。

携帯電話の場合は十二桁の番号がIDコードになります。これ以外のIDコードは、ITのネットワークに参入するには、本来必要がないのです。唯、利用の面で、例えば銀行などの取引でインターネットを利用する場合等のIDコード・パスワードは必要になります。

このIDコード・パスワードを自分では管理しているつ

もりでも、盗まれる場合があります。コンピュータウイルスを使った盗聴です。

電子入札制度があります。二〇〇五年から検討に入り、地方都市の公共団体も今年度から実施されます。現在セキヤリテイ対策に各地方は苦慮しているのです。今日は三月十八日ですが、新年度の電子入札でのクライアメント（顧客・依頼人・広告主などの意味）について、三月二十九日にはならないとウェブソフト（インターネット・エクスプローラー）の脆弱性対策でOSをどれにするか決まらないうちも有るので、

電子入札はインターネットを利用するのですが、本人で有る事を証明する電子鍵を取得しなければなりません。しかし既に偽の鍵を発行する者が現れ詐欺に罹る危険があるのです。

携帯電話の場合は、出会い系サイトをIDコードで釣る方法があります。ID登録を無料にして、出会い系サイトを見せ、視聴料を請求する手口です。

インターネットの世界は、パソコンも携帯電話も、あの手この手で危険がいっぱいな世界である事を認識して頂きたいのです。

編集室より

次ページへ



昨年発行された、住民基本台帳カードです。皆さんはお持ちですか。

住民基本台帳ネットワークシステム

改正住民基本台帳法（平成11年8月成立）の規定により、新たに住民票の記載事項に加わった「住民票コード」をもとに、市町村の区域を超えた事務処理や国などの行政機関へ「本人確認情報」を提供する仕組みを住民基本台帳ネットワーク（住基ネット）といいます。皆様の負担の軽減と行政の効率化を目指したシステムです。

住民基本台帳ネットワークの概要

住基ネットは、あなたの氏名・住所・生年月日・性別・住民票コード・これらの変更情報を、専用回線を使用して、県・住基全国センターに提供することで、全国共通の本人確認を行うためのシステムです。

住基ネットから行政機関へ提供される「本人確認情報」は、法律により、氏名・住所・生年月日・性別・住民票コード・これらの変更情報に限定され、また、利用できる事務も、法律で明確に定められています。現在では、恩給や児童扶養手当の支給に関するものなど93種類の事務に限定されています。

今年8月5日からスタートの第1次サービス

8月5日から、行政機関への届出・申請の際の「住民票の写し」の添付省略が段階的に始まります。（第1次サービス）

行政機関への届出・申請の際、「住民票の写し」の提出をお願いすることがありましたが、「住民票コード」を使用して、住基ネットから、「本人確認情報」の提供を受けることで、皆様の居住確認などができるようになります。「住民票の写し」を取りに行ったり、証明を受けに行く負担が軽くなります。

また、常に最新で正確な居住確認ができるため、年金の過払い防止など、効率的な事務を行うことができます。

※引続き「住民票の写し」などの添付書類が必要な届出もありますので、詳しくは届出・申請をされる窓口等にお問合せ下さい。

平成15年8月5日（土）からスタート

- ◇全国どこの市町村でも、本人や世帯員の「住民票の写し」の交付が可能になります。（ただし、本籍の記載はありません。）
- ◇住民基本台帳カードを希望される方に交付します。このカードにより、引越しの際の手続きの簡略化が可能になります。また、「住民票の写し」の広域交付や、行政機関への届出・申請の際、迅速・正確な本人確認が出来るようになります。

個人情報の保護

改正住民基本台帳法は、基本法である個人情報保護法案に対し、個別法として位置付けられるものです。住民基本台帳法の関係規定等により、関係職員の手続きや「住民票コード」の民間利用の禁止などの個人情報保護措置が講じられています。

また、中川根町では、セキュリティ対策として、セキュリティ関係規程の制定と緊急時対応計画書の作成を行い、個人情報の保護に努めています。

- ◇「住民票コード」が送付されたことによる特別な手続きはありませんが、今後、行政機関への届出・申請の際に、「住民票コード」を求められることがありますので、大切に保管してください。
- ◇住基ネットや住民票コードについてなど、ご不明な点がございましたら役場町民生活課までお問合せ下さい。電話56-2222（直通）

中道さんより寄稿いただいたりて、書いているうちに、住民票コードの件が心配になり「あるかな？」と、さかして見たところ、ありました。ありました。当時中川根町（八年前）から発行された庄着ハカキが家族ひとまとめにして、小封筒に入れられて、ちんちんしまつてありました。ーが、もし、書かなくなつたら、このハカキは、いつ、活用したのだらう（その時は、あわてに、だらうな）と、考えさせられました。同封されていた左の説明書もこの際紹介致します。

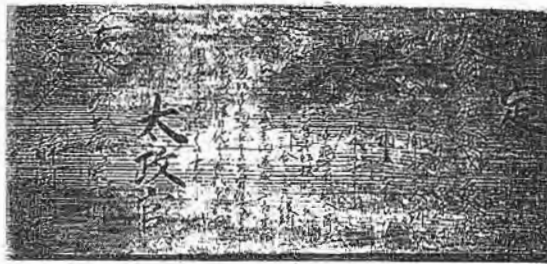
当時は我が国も、今より豊かな（負債の少ない）時代で、国力を持って住民票ネットワークシステムを樹立したのでしようが、一般の国民にとつて活用するチャンスがほとんどなく、遠くはなれた親子の絆は不必要となり、お役所の利便性のみを追究したのか、はたまた国民同一管理下に置きたいのか、このネットワークシステムが、悪徳業者が活用する、危険もあるとする、心配です。この種の利用は、最寄の役所の窓口にて済ませたいものです。

- 前ページに私の持っている住民基本台帳カード（拡大コピー）を載せました。皆さんは、お持ちですか？ 私は、自分を証明するものを、持ってないので、このカードを作ることにしました。この時代、様々なところで、身分証明書が必要な場合があります。その様は時に利用本来、そうです。が、悪徳業者に情報が流れるのも心配しています。
- 森総理のIT（イッツ）の件、すつと前の町長が文井川の源流、南アルプス間の岳（あいのたけ）巨大集会所（まのたけ）と語ったことと、犬、小はあむけれど、勉強不足の点で共勉です。（うフフ...）

徳山 櫻井 勇さん日々精進

第85号にてご紹介致しました櫻井さん病にたおれて体が不自由になり、家業のどこやら卒業しました。墨で達磨画を書くと、元氣を取り戻し、生涯涯いを見つけた事とお知らせ致しました。その後、勉強を重ね、日本京教画法学院・日本禅画協会より、櫻井龍吟という雅号を見事取得されました。おめでたうございます。

四月四日、徳山桜まつり、地区をあげてのお祭りの良き日に、櫻井さんと訪問致しました。櫻井さんが雅号を授けた「豪虎」の夢を見て描いた、雪の舞、そして明治初め、当地区の高札所の掲示板の、ことごとく紹介いたします。



「定」の内容は下段に書きまわりました。



徳山コミュニティセンター前の道路に、掲示場を設け「明治の古文書(板)、本物ですから、保存の関係上、土・日曜日しか掲示しません。よろしく願い致します」とあります。時として、興味ある人に、説明をしております。

※はじめに高札所のこと

定

一 火附盗賊人殺或ハ履令札を
作候もの等見聞次第早速其
最寄役所江召捕
可申候吟味候上相違無之候ハ
御慶美可被下候事

但召捕候節手疵を負又即死
等候ものは厚く御扶助可被下候
訴人いた候者引合候ため殺所に
被召出候節、職業向迷惑不相成候
相應之御手當可被下候間有体ニ可申之候
若隠し置候日他より相違るにおきてハ
曲事ニ當り候事

三月(明治五年)
大政官

右被仰出趣堅可相守
もの也

詩岡縣廳

昔から志太郡の大井川すじて、島田の次に、にぎやかだった、この地には、古来から独特の文化がありました。明治になると、浜之内、野志本、正島をみわけて、徳山(工岐氏のとく)となりました。今の愛宕地蔵堂付近に高札所がおかれ、幕府の法令、命令が掲示され、明治になると官報が張り出され、上記文書(文板)は櫻井さんが所蔵しているものです。



トラガウそぶく。ほえる。
 英雄が活躍するたとえ。
 明君と賢臣が
 めぐり会うたとえ。

虎嘯 (ゴキョウ)

豪年



ユキノマイ
 雪の舞

龍吟

平成二年三月吉日

昼休み、ディーサービスでアンマ機にかかっているうち、「ウト・ウト……いい気持ちで眠りに入ってしまった、雪女の夢を見てしまった、ふと眠りがさめると私の前で、色々工作物を持ち、笑っている女性がいる。夢と同じ様はポーズをして、なにやら真剣な顔をして考えているではありませんか。」

私は「夢と同じ……」と自分に顧えり、アンマ機をはなれて、目の前の女性に「私の願いを聞いて——」と許しを得て、夢の中の雪女のポーズを三、四回して頂き、「これで絵になる」と、コンピュータ（頭）に素早く絵を書き、「これで良し」と、ありがたうかとお礼を言い、「心算は出来たが目がたたりない——どうしよう」と。

やがて、午後のゲームも済み、手を洗ってオヤツを頂き、帰る時間（三時四十五分）となり、名を呼ばれて帰る仕度をして玄関でシューズの履き返えをしていたとき、あの女性が「勇さあん、シドリ」のポーズは、このかまこうかま、ヒッ手ふり、首ふり、腰ふり、のセスチャーをして笑った。その時、目を見て直感的に「これだ、目の位置の動キ、よっ、と」と声をだし、「ありがたう」と心でつぶやき、コンピュータ（頭）に「打ち込め、「出来たよ」と叫び、「ありがたう、ありがたう」と心から言い、「又来週体カづくりお願いしますよ」とウシロ手を上げ、帰りの車に乗り込んだ。来定して早速く線だけ書き、「今度は大きい絵を書き、夢に見た雪女の「雪の舞」を書きたい」と決心し、まった。

実際目で見ただけだと夢を入れてアレンジして色付をして完成したいと思えます。雪の舞が出来たら、ディーサービスの皆様、よろしく鑑賞して下さいね。

—雪の舞も豪虎嘯も、大版和紙墨書きの大作です—

世は映画につれ……後編

石塚 幸男

老境に入ると、涙もろくなるというが、私は若い時から涙もろく、たとえば、テレビの『水戸黄門』の大団円にも、ホロリとするほどだ。世は人の心から「また泣いてる」としよっちゅうからかわれる。その私があるたりかまわず、大泣きしたのは、『マディソン郡の橋』だ。あれは公立高校退職後一年経ったころであつたらうか。

ふらりと入つたのが、この映画である。原作を読んでいて、それなりに興味があつた。中年を過ぎた男女の哀切極まる恋愛物語である。大方、ご存知の、田舎の主婦フランチェスカ(メリル・ストリープ)とプロカメラマンのロバート・キンケイド(クリント・イーストウツド)のたつた四日間のラブストーリーだ。

若い人たちに鑑賞後の感想を聞いたら、「エー、まっ……」とあまりはつきりしない。どちらかと言えば、否定的にも聞き取れる言葉が返ってきた。時代が違うが、ここ数年大ブレイクしたケータイ小説やその映画化『恋空』には大泣きするくせに……。

ある主婦が、次のような感想を寄せていた。引用してみる。

「結婚して、子育てにも一段落した主婦であり、母であり、妻である——ひとりの人間が『女』であつたことに目覚める映画です。子供を出産し、育て、成長した時に、ふと自分だけ取り残されてしまつて、いることに気づき、そこから一歩も進むことが出来ず、いられないもの哀しさ……そんな自分にふと出逢つた男性によって、本当の自分を取り戻していく……とても素晴らしい映画だけれど、この映画はこんな世代の女しか身をもつて実感できないものがありました。車のノブに手をかけて迷う場面ではとにかく泣けて泣けました。涙が溢れて止まりませんでした。あなたか(筆者に)もし二十歳代というなら、あと十年してもう一度観てください。きっと泣けます……」。

この本字の部分こそこの映画の取り方の、世代間の差異を端的に物語っているのだらう。これは男性にも言えることではないか。

「車のノブ……」は、キンケイドとの辛い別れの後、日常の生活に戻つたフランチェスカが、夫と買物に出かけた時、降りしきる雨の中、交差点で、立ち尽くすキンケイドの姿を見つめるのである。お互いにじつと見つめ合う。車に吊るした飾りが、彼女の心のように揺れる。彼女は車から出ようとしてノブに手をかける。しかし、それ以上は、どうしてもできない。そして二人はそれきりであつた。観客の涙滂沱^{ほうた}たる名シーンである。このところは原作にはない。脚本と演出の妙であらう。

そう言えば、前述の『砂の器』でも十分にわたる父子放浪のシーンが胸を打つたが、あれは原作ではたつた二、三行しか書かれていない。映画の良き特長であらう。

それはさておき、『マディソン郡の橋』がなぜ中年以上の涙をさせるのであろうか。そもそもわれわれの心の奥には、普段から、かくあれかし、かくあらまほし、というひそやかなる願望を見果てぬ夢に託しているのではないか。現実生活にはあり得ないし、そんな大それたことは、と親念し諦めつつ、われわれは映画の中にわが心を昇華させるのではないだろうか。そしてわれわれは作品中に己が身を見出し、没入せんとするのであろう。いわゆる感情移入の問題である。そしてそれもつかの間、平々凡凡たる日常に戻っていくのである。われわれはしばしの^{ゆんあん}偷安の夢をむさぼるのみである。

しかし、このような疑似体験?めいた心情は、ある程度の人生活験を経たものの心の琴線をかき鳴らすと言つてもいいだらう。とすれば、前述の主婦の言葉と重なってくるであらう。また見方も変えれば、このようにすることも言えるのではない

だろ。優れた映画(芸術)は、鑑賞者として感情移入を遂げ
 かならずあるあれこれの隘窄を仕掛けてあるものである。鑑賞
 者は心の構えをする前に、その落とし穴にまんまと飛び込まざる
 をえないのである。平たく言えば騙しのテクニクだ。私はなんか極め
 て騙されやすい。

こう考えてくると、若い人はどうだろうか。人生経験が浅いから
 かえって騙しやすいだろうかと思うと、いやいやさにあらず、われわれ
 老人とは全く違う。浅いゆえに老人向き曲折した心情が理解で
 きないのであるだろうか。若者には若者向きの映画があるというこ
 とが言えそう。というのは、私も勤務している高校生、一年、二年、
 三年と計二百人ほどでアンケートを試みた結果がこれを物語ってい
 る。

まず、この二年間(平成二十一年度)で映画館に行っただのは、ハーパーセ
 ニト、何本観たか、に対してはひとり平均一こま二本、DVDなど
 ではひとり十本という結果だった。やはり、映画館離れがあるの
 かしらん。

本題に戻る。

映画、DVDでもっとも記憶に残っている作品は？に対しては、
 圧倒的に多いのは『僕の初恋を君に捧ぐ』で、四十七人の生徒が
 挙げていて、話がちょっとそれるか『捧ぐ』がほとんどの生徒が『捧ぐ』
 になっているのは、単なる勘違いか、漢字力の欠如か、はたまた気
 楽に答えたためのミスか、また結論が出ていない。

次に『ROOKIES』『恋空』と続く。これは予想通りである。
 『余命一カ月の花嫁』『探偵系』『パリーポッター』『シリーズ』『容疑
 者Xの献身』も多い。『子ぎつねヘレン』『マリヒ子犬の物語』という
 ベット好きもあった。

中にはごく少数だが、『スタンドバイミー』『蝶しぐれ』『カサブラン
 カ』など深い生徒もいた。予想を外れたのが、『おくりびと』『レット』

クリフ』がわすれたことだ。一高校のわすか二百人ほどのアンケー
 トであるが、何か傾向がうかがわれるではないか。

ちなみに、今年度(平成二十一年度)のキネマ旬報のベストテンを挙げ
 ると、邦画では、『ティアドロクター』『ウイヨンの妻』『剣岳、点の記』『
 愛のむきだし』『沈まぬ太陽』『空気人形』『ウルトラミラクルス
 トリー』『サマーウォーズ』『誰も守ってくれない』『嵐が強く吹いてい
 る』の順である。

洋画では、『グラントリイ』『母なる証明』『チェンジリング』『テイワ
 レスラー』『愛を語る人』『アンナと暁こした四日間』『スラムドッグミ
 オニア』『戦場でワルツを』『イングリシアス』『バスターズ』の順である。
 当然ながら、いや意外なことだろうか、どっちにしろ高校生の好みを
 外れている。ただ、『嵐が強く吹いている』は教員見ている。これは青春
 向きの駅伝の話だから、彼らの好みに合っていたのだろう。

この原稿を執筆中、第三十三回日本アカデミー賞が発表された。
 作品賞は『沈まぬ太陽』だ。候補作品としては、『ティアドロクター』、
 『ウイヨンの妻』、『剣岳、点の記』、『ゼロの焦点』が上った。

この二大賞作品は、高校生の好みには合わないようだった。これは、彼ら
 のレベルの低さを表すというより、むしろ人生経験の浅さに起因する
 鑑賞眼の低さと言ってしまうのかもしれない。

しかし、長年教員をやっている経験からすれば、確かに現在の高
 校生は、学力や社会通念上の常識という類が落ちてきているような気
 がする。昔は大人顔負けの、あるいは大人びたと言ってもいいかもしれ
 ないが、そういう高校生が確かに相当数いた。だが今は、そういう高
 校生は見当たらない。むしろ子供っぽい高校生が大多数と言ってもい
 いかもしれない。これは嘆くべきか、喜ぶべきか、分らないが、何とな
 く寂しい気持ちがある。

これは、主に読書不足からきていると思う。前述したことだが、
 私たち高校生のころは授業、部活、読書の三本柱が生活の根幹を

なしてけたが、今は溢れるばかりの情報、マスメディア、二転三転する複雑多岐な世相、その他の要素があまりにありすぎ、シンプルに生きていけないことが、彼らとて中途半端な子供っぽい人間にさせているのではないだろうか。

それはさておき、先日勤務校の『図書館だより』に『映画の勧め』として高校生向けの文を書いた。それを次に掲載してみる。(文章の途中から)

前略……いわゆるいい映画ってやつは、どんなものだろう。もちろん観客に退屈さを与えてはならない。感動や共感が長続きせねばならぬ。老若男女を問わず、興行成績をそこそこ挙げなければならぬ。こういうと名画ってやつは、なかなか出ないだろう。

私の映画史でベストスリーを挙げると、『ローマの休日』『カサブランカ』『風と共に去りぬ』だ。

『ローマの休日』は、大学二年生の時観た。ある王国の王女とアメリカ人新聞記者との切なくも甘いラブロマンスである。オドリー・ヘプバーンの気品ある美しさに全世界が驚倒したものだ。哀しい別れになるが、本人同士が好きなら、身分違いでも一緒になせたいと言いたくなる映画だ。新聞記者が王女とスクーターの後ろに乗せて疾駆すると、ころはなんて、かわいいぜ、『忠告』や『僕の初恋を君に捧ぐ』に涙する高校生なら、きっとこのロマンスの世界に身をゆだねるだろう。

『カサブランカ』は、戦後まもなく、横手で観た記憶がある。とすると、高校生のころだったろう。かつて愛した、いや今も愛する女性のために愛するがゆえに、突き放すミグUELが主人公だ。これはいまいち男性が分からない女性には是非是非観てもらいたい。男ってやせ銭優の人種であり、義理人情に弱い、というところがよく分るだろう。主人公のハンフリー・ボカートのかわいさやイングリッド・バーグマンの美しさには刮目するだろう。戦後彼女を初めて観た日本人は、こんなにかいいた女優が世の中にはいたのか、と驚いたことが伝えられている。ずっと後には、アガサクリステル原作の『オリエンタル急行』

殺人事件』に英語が不得意な宣教師役を巧みに演じて、1974年のアカデミー助演女優賞を受賞した。

『風と共に去りぬ』は、第二次世界大戦中に撮影されたカラー作品だ。世界映画史上屈指の大河ドラマ。南北戦争を背景に、野生の男レット・バトラーと父の女スカレット・オハラとの恋愛を壮大なスケールで描く。映画を観ている四時間、最初は「あんな女はいやだなあ」と男は思うだろうが、だんだん「あんな女は可愛いなあ」と変わってくる。女は「あれ、私と似ているわ」と思う不思議な映画だ。二部は立てだが、一部のラストでは、彼女は「私はたとえ人を殺しても、二度と亂えには向きません」と言い、二部のラストでは「明日のこととは明日考えよう」と言う。セリフはわれわれにある重みをもって迫ってくる。『タラのテーマ』の音楽も秀逸とである。

これらは、今書店で五百円で売っているし、リタヤにもあるからぜひぜひ観てもういたい。明日から、君の人生観が変わってくるかも知れない。そもそも映画は、総合芸術だと言われる所以はなんだろう。 知れない まず音楽の面から言えば、たとえば諸君に『崖の上のポニョ』ものけ推し、『スター・ウォーズ』も『宇宙戦艦ヤマト』といえは、「ああ」と即座にメロディを口ずさめるだろう。

私たち年寄りは、前記『タラのテーマ』の他に『戦場にかける橋』、『大脱走』、『アラビヤのロレンス』、『ジーン』などは、メロディを聴くだけで、映画のワンシーンが目に浮かぶ。ことほどさように、音楽は映画と不即不離の関係にある。もし、画面に音楽が流れていない場合を想像して「ごらん、何のこせやう、ちっとも面白くないだろう。皆も知っています。『ジーン』は、あのどんだん迫ってくるメロディがあるからこそあの人食いごめが怖さが倍加されるのである。 次に映画の演劇的要素を考えると、これはもう論を俵たない。映画を裏から支えるスタッフに、セット係、小道具、メイク、美術

などが挙げられる。それに役者の演技力が絡み合いわれわれ観客の感賞全てに訴える。こうなれば、平面的な画面を通り越して、立体的にすらわれわれに迫ってくる。

かく考えると、映画は総合芸術だと言わざるを得ない。立体的といえは、このごろのDなるものが脚光を浴びている。今、映画史上最高の興行成績を挙げている『アバター』は、観ていると思わず身をひくような迫力がある。これを観た生徒諸君は、数人いたので、感心した。この作品は、アカデミー賞の前哨戦と目される、ゴールデングローブ賞を獲得。監督のジェームズ・キャメロンは監督賞を獲った。

原作の良さを伝えられないことで、小説の映画化は難しい。しかし、名画と言われるものは、その点、じょうずに乗り越えている。たとえば『砂の器』は原作者松本清張をして「わしの原作を凌いでいる」と述べせしめていることは、前に述べた。この映画の二十分にわたる父子の放浪シーンは、美しい自然を背景に胸迫るものがあり、日本の映画史に残る名シーンである。このところは、原作にはわずかに一行か書かれていない。

また、クリント・イーストウッド監督、主演の『マディソン郡の橋』は、中年男女の哀切極まる恋を描いた名画だが、主人公同士の交差点での別れのシーンは原作にはない。

今、大塚治ブームだ。映画化も始まっている。第三十三回モントリオール世界映画祭最優秀監督賞作品『ヴィヨンの妻』は、原作と見比べても非常に本来のいい映画だった。まもなく『人間失格』が上映されることになっている。だから、読書に時間がひかり過ぎる人は、映画を観るのが作者に近づく便法であり、捷径かもしれない。しかし、あくまでも原作あつての映画だということをゆめゆめ忘れなくてはならぬ。

山崎豊子の大長編『沈まぬ太陽』のごときは、よくまあ

あんな大作をうまく縮めたものだと感心する。理想的に言えば、原作と映画とを比較してみることである。「へえー、な〜るほど」と考えさせられるはずだ。

私の経験によれば、映画をたくさん観ている人は、物識りが多い。物識りになりたいたらば、映画を観ることだ。もつと映画について語りたいたが、紙幅も尽きた。今後にしよつ。(この文は平成二十二年一月に刊行された冊子からの抜粋である。)

さて、「中川根ふる里通信」に戻る。

以上挙げてきた映画の他に心に残っている作品は多々ありすぎてさりがたない。でも、無理に拾ってみると、ウィルムム・ワイラー監督の『我等が生涯の最良の年』、ビュッセン・ミネリ監督の『巴里のアメリカ人』、フレッド・ジンネマン監督の『第十七補遺収容所』、ちとと跳んで、ジェームス・キャメロン監督の『タイタニック』あたりだろうか。

邦画では、多々あるが、ちととエキセントリックのせしりをまぬがれない恐れがあるが、あえて『男はつらいよシリーズ』を挙げる。四十八作全部観ている。瀧美津という稀有なる俳優が、山田洋次という名匠とを得ては、得た日本映画の金字塔である。役者、ロケ地、ストーリーすべてがいいが、特に取り上げたのが、寅さんのセリフである。

十作目の『寅次郎要親』の「いいか、恋ってのは、飯を食う時だってウソをする時だっていつもその人のこと、頭がいっぱいよ。寅さんの恋愛観である。

二十四作目の『寅次郎の夢』の「何も言わない、目で語りな。お前さんのことを愛しているよ、すると向こうも目で答える。悪いけどあなた好きじゃないの。そんでこっちも目で答える。分かってきたら、いつまでもお幸せに。そして背中を向けて黙って去る。それが日本の男のやり方よ」。これは外国人には理解しにくい。日本の男の美学だ。しかし、言うは易く、行いは難しである。寅さんのこのやり方は相手に一向に通じない。

二十八作目の『寅次郎続風船』の「いい女が泣くと笛の音に聞こえるんだね。おぼちゃん泣くと夜鳴きぞ」のナルメラに聞こえるんだよ。実際にこのセリフには原典がある。落語の『源平盛衰記』だ。それに「いい女が泣くと海棠が雨に打たれてるように聞こえる。悪い女が泣くとナルメラやラッパの音のように聞こえる」とある。巧みな換骨奪胎だ。山田洋次の落語好きは、寅さんシリーズの処々に現われている。興に乗ってさらに続けてみる。

第四十作の『寅次郎サラサ記念日』には、なんのために勉強するのか、と甥の満男に聞かれた寅さんは、こう答えている。「長い間生きていけば色々なことがあるだろう。そんな時に俺みたいになんか決めるし、振ったサイコロの出た目で決めるとか、その時の気分いいのかなと考えることがおもしろい。だから岩手大学へいくんじゃないか」。勉強の本質をあまりよくわかってる感じがする。

最後の四十八作『寅次郎紅の花』では、男として一度は言ってみて、いせりフが寅さんの口から発せられる。浅岡ルリ子粉するりりー(四度めの出演)が柴又から奄美大島に帰ろうとした時に、「ねえ、寅さん、どこまで迷っていたの、ただでいいですか？」と聞く。寅さんは「男が女を送るって場合は、その女の玄関まで送るってことよ」と返すのである。

この最終作では、今までマドンナに振られ続けてきた寅さんは失恋してはいない。リリーとは夫婦同様に心でしつかりと結ばれている。ちなみに山田監督は、渥美清の体調不調を第四十作目『寅次郎サラサ記念日』のあたりから、うすうす感じ取っていたというのだ。四十八作のころは、浅岡ルリ子に「これが最後かもしれない。だから、あなたには是非出てもらいたい」と出演依頼

したそうだった。

さて、シリーズ物と言えど、古くは『兵隊やくざシリーズ』、『座頭市シリーズ』、昨年終わった『釣りバカ日誌シリーズ』、『007シリーズ』などが挙げられる。私は小難しい理屈はさておいて、みんな観ている。『釣りバカ』などバカにしてはいけぬ。三國連太郎と西田敏行のコンビは絶妙だし、環境破壊など現代の弊をチクリと刺している。そして抱腹絶倒の場面がちりばめられている。十九作目では、ハマちゃんこと西田敏行が胃カメラを呑むシーンは腹を抱えて笑ったものだ。

第八十二回アカデミー外国語映画賞を獲ったのは『おくりびと』だった。主演の本木雅弘の演技力には瞠目した。山崎努、広末涼子、余喜美子、世野高史の脇役陣も、うまかった。特に山崎努の演技力には恐れ入った。フクの白子を食べるシーン、死人の装束をこわごわ整える、もっくんを身寄るシーンなど、追真の演技だった。

それにあのロケ地は、藤澤周平の作品に出てくる海城藩の庄内地方、酒田中や鶴岡市やその周辺で、月山、鳥海山が画面にふくらみを与え、テロの荘重な調子が、ローカルカラーとよく響き合った。

次のような人がいる。「誰かが嫌いだから、この俳優が出てくる映画は見たくない」と。これは、その人にとって大なる損失だと考える。なぜなら、私たちが、この俳優を観ていくのではなくて、この俳優の演技を観ていくのである。突然、こういうことを言いたしたのは、広末涼子が嫌いだからこの映画は見ない、とおっしゃったご仁がいたからだ。こういう手合いは女性が多い。もし、その人に、彼女出演の映画を観て何か得るものがあったら、もったいないではないか。感覚的に嫌いだとしても、実際観てうまい俳優だなぁと思えば好きになることだってあるかもしれない。でも、私はそんな相手に無理に抗弁しないことになっている。あくまでもその人の好みの問題だからだ。

しかし、いい映画を観た時は無理に勧めたくなくなることもある。というこゝで、この人にあえて勧めたり、実にいい映画でした、と感謝された。世の人に、俳優の好き嫌いで、映画を観る、観ないはしてもらいたくないと声を大にして言いたいのだ。

筆がそれたが『おくりびと』を観て死ぬ時はあめしてもらいたいと心底思った。こう思うのも、自分がそろそろ『おくりびと』に近づいた予兆かな、とも思った次第である。

さて、この稿執筆中に第八十三回の米国アカデミー賞の発表があった。おおかたの予想を裏切って作品賞を受賞したのは、『アバター』ではなくて、対抗馬とみなされていた『ハート・ロッカー』だった。皮肉なこと、監督は『アバター』の監督のジームス・キャメロン監督の元妻であるキャスリン・ビグロッドだ。それにしても女流監督受賞はアカデミー始まって以来である。めでたいと言ってみてもいいのではないか。『タイタニック』で作品賞を獲得した彼は連続受賞とはいひのなかつた。まさしく『柳の下にいつも躑躅は咲かない』か。米アカデミー会員五千七百余人の厳正なる投票だからいたしかたない。それにしてもNHKですら受賞作は『アバター』と思っていた節がある。というのは三月八日の「ウロースアップ現代」でジームス・キャメロンの特集をやっていたからである。NHKはまさか慌てただろうことは想像に難くない。『ハート・ロッカー』は、三月八日現在、旧静岡市では上映されていない。旧清水市では上映中である。いかなる理由に基づくものか、いささか腑に落ちない。

似たようなことがまだある。今ヒット中の『バーシー・ジャクソン』とオリンポスの神々白は、旧静岡市では、日本語吹き替えで、藤枝では吹き替えとスロ・バージョンス両方で上映されている。旧静岡市の映画ファンはジャリだと思われているのであろうか。これもまた解せないことだ。

こんなことを言っても埒があかない。文句はこころで終りにした方がよさそうだ。

長々と続いた映画談議もそろそろ終章に近づかなければならない。私の人生を顧みると、映画はその時代時代の私の節目節目を刻んでいるような気がする。まさに世は歌につれ、ではなくて、世は映画につれ、映画は世につれ、とでも言いたくなるというものだ。

平成二十二年三月八日 記



昭和22年頃

写真は、島田市街4丁目の様子。手前、2階建映画館。1階東宝(邦画)2階文化(洋画)の映画館。その隣はパーラーヒリヤ(洋食屋)その隣は新栄楼(中華料理屋)だったと思います。島田高時代、石塚先生に教わった生徒で、文化劇場では、十戒やベンハー、中絶されたもの、南太平洋、など沢山の映画を見、東宝では、世界大戦争を見ました。静岡の映画館の方が、こゝより先に上映していた記憶があります。とにかくこの地はにぎやかでした。

おわり

定期購読のお頼い

ふる里通信は有料発行です。

1部 年共 200円

皆様の定期購読がこの通信の発行をささえます。年間4回の発行を目指しております。そして目標は100号です。はじめて読まれる方や、購読が切れた方には、郵便振替用紙と同封致します。会員になっていただいたり、引き続きご覧いただければ嬉しいです。1回1回のご送金は大変ですから1年分800円をご利用下さい。よろしくお願ひします。

発行責任者 〒428-0313

静岡県榛原郡川根本町上長尾 859-6

川澤 節子

TEL. 0547-56-0015

FAX 0547-56-0020

郵便振替口座 00870-4-81556

ホームページ (創刊号より古い順に掲載)

<http://furusatotsushin.yamanoha.com/>

ふる里のお茶の状況をお知らせしましたが、日本中各地で天候不順が起きていることがテレビ他で入って来ます。梅も幼実が凍りてしまい不作、野菜も日照不足で実らない。果物の受粉を助けるミツバチが少なくなっている。…など。農作物への影響も心配されます。お茶は必ず芽が出るし刈り取りの工夫をすれば、何とか乗り切れそうですか。もしかして、今年は飢饉に見舞われるのでは——と心配しています。もちろん徒勞である事を願ひつつ。

花粉症、スギ、ヒノキ、マツ、ヨモギ、チガヤ、フタクサ、アレルギ、寒冷・ファンヒーター・犬・猫・ハウスダスト・光化学スモッグ、黄砂など、私達をとりまく環境のちよとした変化に、現代人は反応を示すこと、これは日本人特有のものなのだろうか。一説に、回虫がいなくなつたから、ヒノキの花粉もある様ですが、スギ、ヒノキの花粉症の場合、花粉が飛び

散る度合によつて、症状が出るか出ないかの区分があるようです。今春はスギもヒノキも花粉が少なかったため、例年よりすこしやすかつたようです。



郡境(現静岡市・川根本町)のラインが判らない所(日本内でも他になさそう)が存在したり、秘境、の文字ではかたづけられない、野性的な町であること、そんな所が大好きです。次回号は、早目に取り組んで、川根本町の素朴なところを、ご紹介出来たらと思っております。もうすぐ、椎の木や、榎の木に花と新芽が出て、黄金の山となります。けつこう杉、檜以外の樹木が、沢山はえておりますよ。

大札山にて、フデリンドウの花を見つけた。何とも小さい、かわんな花です。よくよく嗅いでくれました。大札山は大昔、火山島だったようです。その福な印が、各所に見られて、学術的にもおもしろい山です。合併して川根本町になり、寸又川上流の拡大な山地も町のものになりましたが、不伐の原生林があつたり。